

総還元額が多い企業

順位	社名	業容	総還元額 5年合計	総還元性向 5年平均
1	大研医器	医療機器の開発・販売	50.02億円	92.8%
2	ウェルネット	電子決済・収納代行	49.42	102.3
3	コタ	頭髮化粧品製造	34.40	91.4
4	アドバンスクリ エイト	保険代理店専業	33.60	102.7
5	朝日ネット	ネット接続大手	33.25	79.1
6	サインエレクトロ ニクス	半導体ベンチャー	32.51	381.6
7	モーニングスター	投信商品評価	32.13	72.4
8	アールピバン	現代版画販売	31.44	180.8
9	インフォマート	電子取引市場	31.34	66.6
10	リベステ	マンション分譲	27.55	67.5
11	学情	就職情報大手	23.48	60.4
12	センチュリー21・ ジャパン	不動産仲介FC	22.71	55.4
13	シーティーエス	建設ICT専門企業	22.65	62.4
14	日本エス・エイチ・ エル	企業向け適性テスト販売	21.61	69.3
15	テクノスジャパン	統合基幹システム導入支援	21.25	117.1
16	テクノメディカ	採血管準備装置開発	21.07	36.0
17	プロシップ	システム開発	19.96	47.3
18	シグマ光機	レーザー関連部品	19.35	92.3
19	東京楽天地	阪急系興行会社	19.30	42.0
20	ユニリタ	ソフト開発	18.88	35.8
21	アルバイト タイムス	求人情報誌・サイト	18.30	55.6
22	丸八倉庫	倉庫中堅	18.12	56.1
23	ハチパン	ラーメン店チェーン	18.00	112.8
24	ダイサン	仮設資材製造・販売	17.62	54.6
25	日創プロニティ	金属加工	17.11	27.7

NEXT  
1000

過去5年の総還元額

独自の技術、投資と両立

医療現場を変える開発力

内部留保や現預金の使い道に投資家の注目が集まっている。配当と自社株買いを合わせた総還元額が多い企業はどこか。成長期待が高い中堅上場企業「NEXT1000」を対象に過去5年間の総還元額を調べたところ、上位には得意分野で高いシェアや独自のビジネスモデルを持つ企業が並んだ。高いシェアなどを武器に収益を安定させ、成長投資と株主還元を両立している。

大研医器は病院の手術室などで使われる血液や体液の吸引器や薬剤の注入器で国内トップシェアを誇る。安全性はもちろん、使い勝手を重視した製品開発がモットー。稼いだお金を研究開発につぎ込み、魅力ある製品を生み出す循環で安定した成長を実現している。

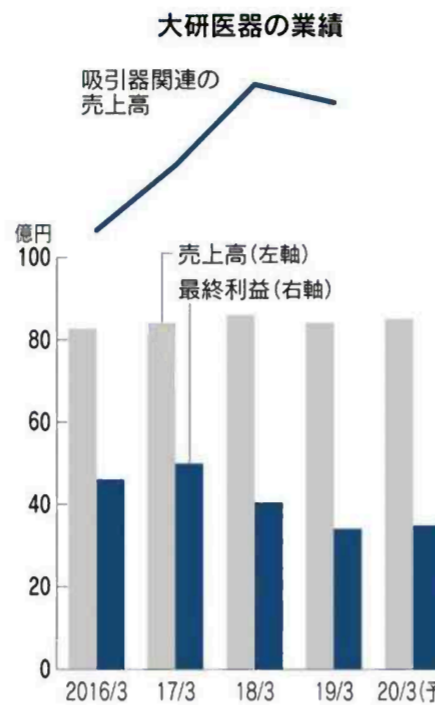
1位 大研医器

胸手術などの際、血液などの排液を吸引取りプラスチックボトルの中に入れる。ボトルは凝固剤が一体となつて密閉され、吸引が終わればフタを開けずに簡単な操作で凝固剤を投入できる。排液は20分程度で固まり、ボトルごと焼却炉に捨てられる。

開発で重視するのは患者や医療従事者のメリットだ。持続注入器の「シリンジクター」は患者に麻酔剤や鎮痛剤をカテーテルで流し込む際に使う。大気圧を利用して薬剤を流し込む。他社製品などに多い風船の中に薬液を投入する手法に比べて流量が安定する。投与する薬剤の量を調整しやすく、患者の負担が少なくなるという。

これまで屋台骨だった主力のフィットフィックスは特許の期間が切れ、安価な競合製品の攻勢を受けている。新たな収益の柱を育てるため、2017年には大阪府和泉市に約21億円を投じて工場を新設した。隣接する商品開発研究所と連携し、研究開発から生産まで一貫して取り組むためだ。現在はMEMS（微小電子機械システム）技術に応用した機器などを開発中だ。安定した収益は株主還元にも振り向ける。19年3月

期までの3年の配当性向は6割を超える。前期には10億円の自社株買いも実施した。今後も配当性向60%を維持していく方針を掲げている。



■排液を凝固し容器ごと焼却できる大研医器の医療用吸引器「フィットフィックス」  
■大研医器の医療機器を製作する工場（大阪府和泉市）



14位 日本エス・エイチ・エル  
企業に適性検査を提供

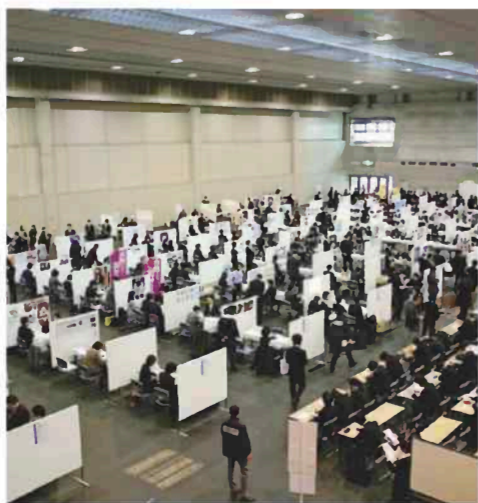
日本エス・エイチ・エルは企業が人材の採用や社内研修などに使う適性テストを提供する。論理的な思考力や計数処理の能力の測定、性格診断などができる。英SHLグループが開発したテストを企業の要望に合わせて内容を調整して提供する。テスト結果に応じた面接の仕方など、企業へのコンサルティングもする。取引社数は7000社弱で、毎年1割近いペースで増えている。新卒採用が売り手市場となっていることが追い風だ。短期間で効率的に優秀な学生を確保したい企業が、テストを取り入れるケースが多い。テストを使い「入社後に長く働いてくれる社員を選びたい」との声も目立つ（奈良学社長）。好業績を背景に50%の配当性向を当面維持し、自社株買いも視野に入れているという。

7位 モーニングスター  
投資信託の格付け配信

投資信託の評価サービスなどを手掛ける。ウェブサイトやリポートで同社の格付け情報を使いたい金融機関からライセンス収入を得る。デジタル事業に注力しており、銀行や証券会社などが営業活動で使うタブレット端末に配信データを配信する事業で収益を伸ばしている。タブレット向けの販売支援ツールは、投資信託の運用実績や手数料、評価情報などをチャートで手軽に比較できる操作性の高さが特長だ。2019年3月末時点で257社が利用し、導入端末は7万3千台を超える。導入企業の増加で19年3月期の連結純利益は前の期比11%増の12億円と6期連続で最高益を更新した。年間配当は14円で10期連続の増配、配当性向は95%だった。朝倉智也社長は「今後も利益を伸ばし同水準の配当性向を目指す」と話す。

21位 アルバイトタイムス  
無料の求人情報誌

静岡県と愛知県で無料求人情報誌を発行する。ショッピングモールやコンビニで新規出店が相次ぎ、求人広告数が増加している。人手不足で採用が厳しくなっていることから、企業が広告面積を大きくしたり、連続して広告を載せたりする傾向が高まっている。近年は求人情報誌に代わり、ネットでの求人広告を希望する企業が増えている。ウェブ広告は紙媒体に比べ単価が安く、広告収入に頼った事業だけでは売り上げが減少してしまう。そこで最近では事業の幅の拡大を進めている。静岡県を中心に、正社員限定の合同就職説明会を開催したり、外国人向け求人を手付けたりしている。これまで積極的に自社株買いをしており、今後も配当性向50%をめどに配当を実施する方針だ。



アルバイトタイムスは静岡県や愛知県で求職者向けの会社説明会を開催する